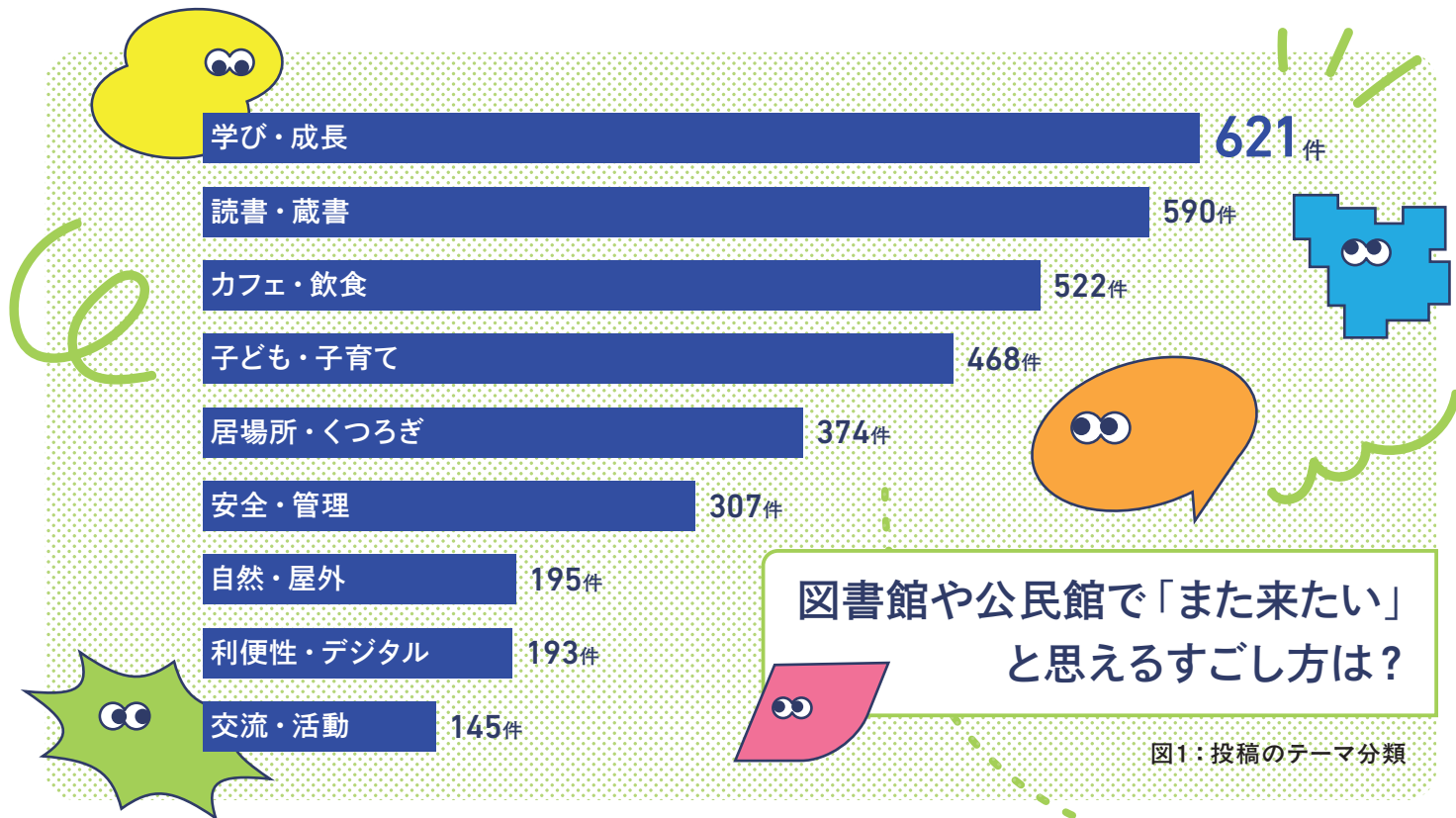




図書館や公民館で「また来たい」
と思えるすごし方は？

【文化ゾーン見える化通信 Vol.1】

みんなのアイデア・ご意見をまとめました

長岡京市では、図書館・公民館を含む文化ゾーンのこれからのあり方を考えるにあたり、オンライン投稿フォーム「Voice NAGAOKAKYU」を通じて、皆さんのアイデアやご意見を募集しました。

多くのご意見をいただきました

期間中、多くのご意見・アイデアをいただきました。テーマごとに内容を整理すると、図1のようなテーマが見えてきました。学びや読書といった従来の機能に加え、カフェや居場所など「過ごし方」に関する意見が多く見られました。投稿者の年代構成では、30代～40代を中心に、子育て世代から多くの意見が寄せられました（図2）。

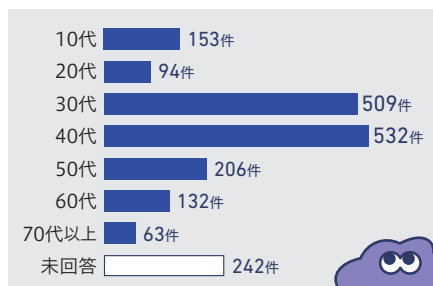


図2：投稿者の年代構成

みんなの声から見えてきたこと

今回の意見から見えてきたのは、図書館や公民館に求められる過ごし方が非常に多様であるということです。静かに集中したい人もいれば、誰かと会話を楽しみたい人もいる。一人で過ごしたい人もいれば、家族や友人と過ごしたい人もいる。こうした異なるニーズが同じ空間の中に共存できることが、これからの図書館・公民館に求められているのではないかと考えています。

市としての考え方

今回の取組は、行政に対する「要望」を集めるものではなく、「これからどのような場所であってほしいか」「どのように過ごしたいか」といったアイデアや思いを共有しながら、今後の基本計画づくりにつなげていくことを目的としました。いただいた意見をその

まま実現するのではなく、多様な意見を踏まえながら、これからの図書館・公民館のあり方を一緒に考えていきます。現時点で方向性が決まっているものではありませんが、今回の結果を踏まえ、「どのような過ごし方を受け止められる空間にするか」という視点で、検討を進めていきます。

次のステップへ

今回いただいたご意見は、今後の検討の出発点となるものです。2026年8月1日には講演・体験イベントを実施し、実際にさまざまな過ごし方を体験していただく機会を設けました。今後も実証的な取組を重ねながら、今回の意見が実際の空間や使い方としてどのように成り立つのかを検証していきます。引き続き、皆さんと一緒に考えながら、長岡京市らしい文化ゾーンのあり方を形にしていきます。



集まった意見や論点、分析結果は、Voice NAGAOKAKYUで閲覧できます。